



文化祭 作品鑑賞



ほうない

第8号

村上市立保内小学校
強い心 豊かな心

〒959-3107

村上市下鍛冶屋264-2

TEL0254-62-2302

FAX0254-62-5553

ノーベル化学賞の吉野氏に学ぶ 好きこそものの上手なれ

校長 須貝 学

リチウムイオン電池を開発し、2019年ノーベル化学賞を受賞した吉野彰氏は、小学校4年生の頃、化学に関心を持ちました。そのきっかけは、当時の担任の先生が、吉野少年へ薦めた一冊の本だったそうです。

です。そして、子ども向けの科学雑誌を読んでさらに幅広い知識を身に付けていきました。また吉野氏は「好きこそものの上手なれ、ではないが、子どもは、関心を持つとどんどん得意になるんです」と述べています。

吉野氏が開発したリチウムイオン電池はノートパソコンやゲーム機、電動アシスト自転車、ロボット型掃除機など、私たちの身の回りで、さまざまな形で使われています。リチウムイオン電池がない世の中だったら、スマートフォンなどは今よりずっと重くて使いにくかったようです。最近では電気自動車や飛行機、探査機はやぶさIIや国際宇宙ステーションなどにも活用が広がって、私たちの生活に欠かせない存在になっています。

保内小学校の子どもたちの学校生活を見ていて、私も同様の思いをもちます。文化祭の絵や工作には、そんな姿が見て取れました。自分の思いがこもった渾身の作品には、見る人の心を引きつける魅力に溢れていました。

前述のとおり、吉野少年は4年生の時、担任の女性の先生が薦めてくれた「ロウソクの科学」という本を読み、「ロウソクはなぜ燃えるのか、炎はなぜ黄色いのか」といった内容で、子ども心に化学はおもしろそうだなと思った」そう

勉強や運動に限らず、保内っ子たちも「好きこそものの上手なれ」であって欲しいと願います。そして、自分の得意な分野を見つけて、夢や可能性を伸ばしていく子どもたちが増えていくことを期待します。そのためには、学校はもちろんですが、私たち大人が、子ども一人一人の個性を伸ばし、やる気スイッチを見つけてあげなければなりません。